



幾世橋小学校

双葉郡浪江町大字北幾世橋字植畑 11



「文教の地」としてたゆみなく 学問に精進する校風

幾世橋小学校は、1876（明治9）年、浪江小学校より分離して開校しました。幾世橋は「文教の地」と言われています。それは江戸から明治にかけて活躍した錦織晩香氏が現在の北幾世橋に「希賢舎」を開いたことから始まったとされています。晩香は文教の地のシンボルとして白檀を植え、これは校歌にも歌われました。

1956（昭和31）年には学校独自に「幾世橋の子」を出版しました。これは理科研究活動の成果をまとめたもので、平成になっても毎年のように様々な研究指定校・実践校となりました。まさに白檀のように風雨にもめげず、たゆみなく学問に精進する校風が引き継がれてきた小学校でした。

校歌

作詞/和田甫 作曲/古閑裕而

1. みどりの松に 明けそめる
光はてなき 太平洋
なぎさに珠と ぐだけては
うたう世紀の 朝の歌
幾世橋 幾世橋小学校
2. 紫かすむ 阿武隈は
山なみ遠く 呼びかける
ゆたかな夢を はばたかせ
明日の世界に 飛びたてど
幾世橋 幾世橋小学校
3. 白檀香る 丘の上
稲と蜂との 旗たかく
希望の風に ひるがえし
今日も学びの 道をゆく
幾世橋 幾世橋小学校



沿革

明治 5年	学制発布の際創立、浪江明倫館内に浪江小学校を開校（幾世橋、北幾世橋は学区）	昭和53年 3月	体育館落成
8年 5月	乙第七十字区幾世橋小学校開校（大聖寺一室を教場）	56年10月	「勤労体験学習」研究発表
8年11月	棚塩村請戸広業学校を分離して合併 北幾世橋字町後三畝に移転開校	61年 4月	体育館南側に白檀の木植樹（田中慶秋先生寄贈）
9年 1月	幾世橋小学校を北幾世橋字町後に開校 （浪江小学校より分離）	62年10月	体育館屋根全面大改修 県小教研算数部会会場校に指定
9年11月	棚塩小学校開校 （棚塩村請戸広業分業学校より分離）	平成 3年 4月	北幾世橋字植畑 11 に新校舎落成
12年 3月	幾世橋実業公民学校と改正	7年10月	県学校緑化推進研究校指定
20年 4月	学制改正により両校を浪江尋常小学校に合併	13年10月	敷地東側に新プール建設
23年 4月	幾世橋尋常小学校を北幾世橋字町後に建つ	15年10月	校庭改修工事完了（200mトラック完成）
26年 5月	北幾世橋字羽場に移転新築	16年 4月	県「基礎学力向上推進支援事業」研究校指定
41年 1月	幾世橋小学校内に幾世橋村立農業補習学校を併置	18年 4月	県「うつくしまハートフル推進事業」実践校指定
大正 8年 4月	高等科を併置し、幾世橋尋常高等小学校と改称	19年 4月	県「学力向上支援プロジェクト事業」対象校指定
15年 7月	幾世橋村立幾世橋青年訓練所創立、幾世橋尋常小学校に併置	21年 2月	二宮金次郎歌碑を建立（幾世橋地区より寄贈）
昭和10年 4月	青年学校令交付により廃止し、幾世橋村青年学校と改称	23年 3月	東日本大震災および原発事故のため臨時休業
16年 4月	幾世橋村国民学校と改称	23年 7月	卒業証書授与式（卒業のつどい）：二本松御苑
22年 4月	学制改革により双葉郡幾世橋小学校と改称、高等科は廃止して中学校	24年 2月	幾世橋っ子のつどい（岳温泉・安達ヶ原ふるさと村）
27年10月	幾世橋小学校児童文集「幾世橋の子」発行	24年 7月	幾世橋っ子のつどい（国立那須甲子青少年自然の家）
28年12月	幾世橋村、請戸村、浪江町の町村合併により浪江町立幾世橋小学校に改称	26年 1月	幾世橋っ子のつどい（岳温泉・安達ヶ原ふるさと村）
31年 8月	幾世橋小学校理科実験の観察の記録「幾世橋の子」発行	26年 7月	学校での私物引き渡し①
32年 9月	北幾世橋字植畑 45 に移転 （8教室新築、平屋6旧教室移築）	26年 8月	幾世橋っ子のつどい（岳温泉）
38年 6月	校歌制定 作詞／和田甫 作曲／古閑裕而	26年11月	学校での私物引き渡し②
39年 3月	校庭拡張	27年 8月	学校での私物引き渡し③
49年 3月	創立百周年記念式典、記念碑1、記念誌「白檀」	27年11月	幾世橋っ子のつどい（アーバンホテル二本松）
		31年 3月	休校
		令和 2年 7月	幾世橋小学校見学会を開催
		3年 3月	閉校

「ふるさと追想」

浪江のころ通信

平成 30 年広報なみえ
12月号より抜粋

被災経験を活かし、人の役に立ちたい

高木 七美さん（中学3年）

震災の時は小学1年生でした。避難先の二本松市・岳温泉では、友達ともすぐに打ち解けて、浪江になかったスキーの授業や登山も体験しました。地域のつながりがとても強く、みんな「七美、七美」と可愛がってくれました。この時の友達とは今も連絡を取り合っています。中学2年生の時に、福島民報社が募集した「ふくしま復興大使」に就任し、1年間務めました。県内各地を視察したり、県内外の大きなイベントに参加したりし、いい経験になりました。全国の人にお世話になったので、私もいろいろな地域の人に役に立ちたいと思っています。今はいわき市に住んでいますが、浪江町も早く復興してほしいです。人が戻って、また前のように賑やかになることを願っています。

震災前の学校の風景



鼓笛パレード



きよはしっ子のみなさんへ（震災後）



鮭放流体験



旧校舎（1965年）



農業体験



震災前の校舎



運動会

震災直後の記録とその後

震災発生直後、児童らは校庭に避難し、人数確認やけが人の状況確認を進めました。風が強く、ブルーシートで児童を囲み、防寒に努めました。その頃、津波が南側の田んぼまで押し寄せていましたが、その様子を児童に直接見せないようにしました。地域住民を受け入れる準備を進め、その一方、児童をしばらく学校に待機させ、担任がそばに寄り添い見守りました。翌朝、防護服を着た警察官が突然訪れ、「10km圏外」に避難する指示を受けました。児童たちは素早く避難したため、全員無事でした。

その後原発事故に伴い、児童たちは県内外に避難。同年7月には「幾世橋っ子再開のつどい」が開かれ、卒業を祝う会も催されました。また幾世橋小学校の卒業生でもある針谷順子先生から「幾世橋小学校は教育の原点」という講話がありました。針谷先生が在学中の1952年に文集「幾世橋の子」が発行されました。これは全校児童の作品・文章・詩・俳句・観察記録が掲載され、児童たちの心を育てた素晴らしい冊子でした。震災後は、大変な中で新たに学校文集「幾世橋の子ら」が発行されました。それは、散り散りになった幾世橋の子たちを結ぶ一本の綱、そして宝物になることでしょう。



平成 22 年度卒業の集い (2011 年 7 月)



幾世橋の子



幾世橋の子ら



花壇整備



幾世橋っ子のつどい (野外活動)



幾世橋っ子のつどい (卒業証書の授与)



幾世橋っ子のつどい (2012年7月28日)



請戸小学校

双葉郡浪江町大字請戸字持平 56



海にほど近い地に建つ 潮風薫る小学校

政府の「学制」を受けて明治初頭に請戸村で肝煎を務めた濱谷善一氏の自宅に開設した「広業小学校」が、請戸小学校の始まりです。

海から約300メートル内陸に建つ校舎は1998（平成10）年に改築され、クジラやカモメ、波をモチーフにしたデザインが至る所に取り入れられていました。なかでも体育館は、外側はシロナガスクジラ、内側は木造船の船底風の大変立派な施設でした。シンボリックな存在であった展望台からは、請戸を見渡すことができました。また、相双を代表する画家・朝倉悠三さんの絵を大堀相馬焼に焼き付けたタイルが、校舎の壁や廊下にたくさん埋め込まれていました。

校歌

作詞/冬村 春踏 作曲/渡邊 義章

- ほのかなる 潮の香りよ
風そよぐ 砂金の丘よ
永遠に 潮騒渡る
海近い 平和な土に
巖と立つ われらが母校
ああ請戸 小学校
- 遙かなる 雲の行方よ
涯てしない 空の青さよ
美しい 未来の夢に
この翼 羽ばたく日まで
励まん われらが母校
ああ請戸 小学校



沿革

明治 6年 7月	請戸字本町濱谷善一氏宅に広業小学校創立
7年 9月	請戸小学校と改称
8年 6月	請戸字大師堂の校舎落成
20年 4月	請戸尋常小学校と改称
22年 3月	火災により校舎全焼
大正 8年 4月	請戸尋常高等小学校と改称
22年 7月	校舎新築
昭和 16年 4月	請戸村国民学校と改称
22年 4月	請戸村立請戸小学校と改称
23年 2月	父母と教師の会結成
23年 6月	県指定により学校給食開始
28年 10月	町村合併に伴い、浪江町立請戸小学校と改称
35年 11月	校章制定 (本校図工主任・松本亨教諭による) 校旗樹立 (緑 安雄氏寄贈)
37年 9月	校歌制定 冬村 春踏 (請戸出身) 作詞
45年 2月	新校舎改築落成
48年 9月	本校PTA 県連Pより表彰される
49年 2月	創立100周年記念式典挙行 記念誌ともづな刊行
56年 1月	東地区共同調理場発足
58年 6月	「よい歯の学校コンクール」特別優秀校表彰受賞
平成元年 10月	県小教研道徳部会開催
8年 11月	新校舎建設用地造成工事開始 (請戸字持平地内)
10年 3月	新校舎竣工・開校式 (請戸字持平56番地に移転)
10年 5月	新校舎落成記念式典挙行
11年 9月	第54回福島県下小・中音楽祭銅賞受賞
14年 6月	福島県学校歯科保健優良校表彰受賞
14年 10月	第53回学校関係緑化コンクール理事長賞受賞
15年 9月	県学校給食優良団体として表彰される
17年 11月	特別支援教育対応校舎改築
18年 11月	東地区学校給食共同調理場 文部科学大臣表彰

平成 19年 6月	校庭西側にモチノキ植樹 (40本) 県学校歯科保健優良校最優秀賞表彰受賞
20年 6月	県学校歯科保健優良校優秀賞表彰受賞
23年 3月	東日本大震災および原発事故のため臨時休業 3月11日 (発災直後の動き)
14:46	地震発生
14:47	安全確保のため待機指示
14:51	大津波警報発令確認
14:52	児童の安全確認と避難指示
14:54	教務主任先導で大平山に向けて避難開始
14:55	校長・教頭、保護者対応。児童との合流は大平山
15:15	校長、保護者の来校が止まり大平山に向けて避難
15:17	教育委員会担当者来校し、避難指示
15:35	教頭、校舎最終確認後大平山に向けて避難
15:37	津波により電気設備複合盤機能停止
16:30	国道6号双葉町鴻の草地区到着
16:40	運送業者大型トラック荷台でサンシャイン浪江へ
23年 7月	卒業生を励ます会：福島市A・O・Z (アオウゼ)
23年 12月	元気だった会①：本宮市・県農業総合センター
24年 8月	元気だった会②：郡山市少年湖畔の村
25年 7月	元気だった会③：猪苗代町総合体育館
26年 8月	元気だった会④：猪苗代町農村環境改善センター
30年 8月	浪江町震災遺構検討委員会の設置
31年 2月	浪江町震災遺構検討委員会から震災遺構保存・活用の提言
31年 3月	休校
令和元年 8月	請戸小学校震災遺構基本・実施設計業務着手
2年 6月	請戸小学校震災遺構整備工事着手
3年 3月	閉校
3年	請戸小学校震災遺構一般公開開始予定

「ふるさと追想」

浪江のころ通信

平成 30年広報なみえ
2月号より抜粋



いろいろな経験を、これからの人生に活かしたい

玉野 紘成さん (大学1年)

震災の時は小学6年生でした。教室からまず校庭に避難し、大平山に走って逃げました。その後、家族は各地を転々とし、僕は千葉の中学校に入学しました。最初は周りとうまく付き合っていたのですが、だんだんと同級生や先生の気遣いが重く、つらくなることがありました。たとえばある時、震度3くらいの地震が起こり、僕が卓球台の下に潜り込んだのを見て笑った同級生を、先生がきつく叱りました。同様のことが何度かありました。

3.11の経験を活かして人の役に立つ資格を取りたいと、今は社会福祉士を目指して大学生活を送っています。小学校の時の友だちは、まだ消息が分からない人もいます。この記事を読んだ友人から連絡がくるとうれしいです。

震災前の学校の風景



鼓笛パレード



クラスの仲間と



旧校舎



震災前の校舎



安波祭



安波祭



サンドアート

震災直後の記録とその後

震災発生直後、地域の方が「この地震は普通じゃない。津波が来る。子どもたちを避難させろ」と集まりました。校長先生の「津波が来る。大平山へ避難」の指示で、保護者に引き渡さずに児童全員と山に向かいました。避難ができたのは地域の方が一緒だったことと山道を知っている子がいたからです。山道に入ってから「バキバキ」という、町が津波に飲み込まれる音が聞こえましたが、木々に覆われていたため、児童には津波や町が破壊される様子を見せずにすみました。国道6号に抜け、大型トラックの運転手さんが児童や教職員、住民100人余りを役場まで乗せてくれて助かりました。児童が全員無事だったことは大きな喜びでした。

その後児童は県内外に避難しました。先生、級友との最初の再開の機会「元気だった会」は約9カ月後に開催されました。懐かしく楽しく過ごし、「また会いましょう」と笑顔で別れることができました。そして翌年8月、2度目の「元気だった会」は郡山市少年湖畔の村で開催され、請戸の海岸を懐かしく思い返しながら、湖水浴や砂遊びで猪苗代湖での夏を満喫しました。

甚大な被害を受けた請戸小学校校舎は、できるだけそのままの形で残し、教訓を未来に伝えるべく、2021(令和3)年度に「震災遺構」として公開する予定で整備を進めています。



卒業生を励ます会 (2011年7月)



郡山市にて子ども交流会 (2011年7月)



元気だった会 (2013年)



黑板への応援メッセージ



避難時の奇跡が絵本や紙芝居として完成